

指導と評価の年間計画 国語総合

科目	学年	単位数	教科書	副教材
国語総合	1年	6	国語総合 (数研出版)	改訂増補版 最新国語便覧 (浜島書店) 改訂版 現代語練習帳ことのは (いいずな書店) 八訂版 体系古典文法 (数研出版) 必携 新明説漢文 (尚文出版)

科目の目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重し、その向上を図る態度を育てる。				
学習活動	<p>①授業は予習を前提に進みます。現代文では意味調べ、古文では品詞分解と現代語訳、漢文では書き下し文と現代語訳を行います。</p> <p>②復習ではその日習った重要事項を確認します。小テストで定着度を確認することがあります。</p> <p>※国語力だけでなく、他の教科の理解力の基盤となる「もの」の見方、感じ方、考え方を広げたり深めるためには、幅広いジャンルの読書が必須です。本校の図書館などを十分活用し、読書習慣を身につけます。定期的にブックレポートの提出を求めます。</p> <p>※読む能力、書く能力、話す・聞く能力をまんべんなく身につけるため、積極的に、物事に取り組んでください。</p>				
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
評価方法	○授業・発表態度の観察 ○授業ノート・課題の点検	○授業・発表態度の観察	○定期考査 ○課題テスト ○小テスト ○読書感想文	○定期考査 ○課題テスト ○小テスト ○授業・発表態度の観察 ○課題の点検	○定期考査 ○課題テスト ○小テスト ○授業・発表態度の観察 ○課題の点検

年間指導計画（現代文）

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 評論（一）水の東西 ネットが崩す公私の境 ■ 評論（二） 「わらしべ長者」の経済学 ものとことば ■ 表現 1 スピーチ（話す聞く） 2 文章要約（書く） ■ 小説（一） 羅生門 ■ 詩 六月 ほか ■ 評論（三） 時間と自由の関係について 無痛化する社会のゆくえ ■ 評論（四）「間の感覚」 添削の思想 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 文脈を考えながら語句・表現を読み取る。 <input type="checkbox"/> 文章の構成や段落相互の関係を的確にとらえる。 <input type="checkbox"/> 伝えたい内容をはっきりと、論理的に述べる。 <input type="checkbox"/> 他の人の発表の要点を的確に聞き取る。 <input type="checkbox"/> 場面や状況、登場人物相互の関係をとらえる。 <input type="checkbox"/> 登場人物の心理の変化をとらえる。 <input type="checkbox"/> 繰り返し音読み、リズムや表現の特徴を考える。 <input type="checkbox"/> 注意を要する表現を的確に理解する。 <input type="checkbox"/> 本文の展開に即して筆者の主張を理解し、要約する。 <input type="checkbox"/> 同じテーマについて論じた評論を読むなどして、考察を深める。 	<p>単元ごとに「学習活動」の①②をそれぞれおこない、単元を通じて5つの観点について評価をおこなう。</p>
後 期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 表現 3 手紙（書く） 4 意見文（書く） 5 ディベート (書く話す聞く) ■ 小説（二） 富岳百景 ■ 短歌と俳句 ■ 評論（五） 動的平衡の回復 ■ 小説（三） 城の崎にて 沖縄の手記から ■ 表現 6 プレゼンテーション (書く話す聞く) 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 書式を学び、目的に応じた文を書く。 <input type="checkbox"/> 構成を工夫して、説得力のある意見文を書く。 <input type="checkbox"/> 話し合いを通じて考えを深める。 <input type="checkbox"/> 心情や情景、場面を想像力を働かせて読む。 <input type="checkbox"/> 表現に即して、各歌に詠まれた情景や心理を的確に捉える。 <input type="checkbox"/> 全歌を音読みし、印象に残った表現や感想を発表する。 <input type="checkbox"/> 人間、社会、自然などに対して自分なりの考えを持つ。 <input type="checkbox"/> 読めない漢字、難解な語句表現は辞書で調べる。 <input type="checkbox"/> 表現の特徴や効果について理解する。 <input type="checkbox"/> 登場人物の心理を場面ごとに追い、その変化をとらえる。 <input type="checkbox"/> 目的や場にふさわしい話し方や言葉遣いを理解する。 <input type="checkbox"/> 伝えたい内容をはっきりと、論理的に述べる。 <input type="checkbox"/> 他の人の発表の要点を的確に聞き取る。 	<p>単元ごとに「学習活動」の①②をそれぞれおこない、単元を通じて5つの観点について評価をおこなう。</p>
備 考	<p>表現に関する学習は上記のとおり（書くこと12時間、話す・聞くこと6時間）とし、スピーチやレポート・感想文の作成・発表などで32時間分を現代文・古文・漢文それぞれの授業の中に組み込みます。</p>		

年間指導計画（古文）

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 説話 児のそら寝 絵仏師良秀 ■ 随筆 徒然草 (つれづれなるままに ほか) ■ 古文の基礎 ■ 品詞の種類 動詞・形容詞・形容 動詞 ■ 係り結びの法則 ■ 助動詞 ■ 歌物語 伊勢物語 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 古人の考え方、生き方にふれ、自分なりの考えを深める。 <input type="checkbox"/> 古文の調子に慣れるよう、繰り返し音読する。 <input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いや古語の読み方を覚えて、本文を正確に音読する。 <input type="checkbox"/> 古典文法を理解しその知識を本文の内容を正確に読むために使う。 <input type="checkbox"/> 登場人物の心情、場面や情景を的確に読み取る。 <input type="checkbox"/> 和歌に託された作者の心情を的確に読み取る。 	<p>単元ごとに「学習活動」の①②をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。</p>
後 期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 物語 竹取物語 ■ 和歌 万葉集 古今和歌集 新古今和歌集 ■ 随筆 枕草子 ■ 助詞 ■ 敬語 ■ 和歌の修辞 ■ 日記文学 土佐日記 ■ 軍記物語 平家物語 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 筆者のものの見方、考え方を的確に読み取る。 <input type="checkbox"/> 古語の意味を理解し、指示語の内容や主語を明らかにして、正確に現代語訳する。 <input type="checkbox"/> 古人の考え方、生き方にふれ、自分なりの考えを深める。 <input type="checkbox"/> 登場人物の心情、場面や情景を的確に読み取る。 <input type="checkbox"/> 敬語表現の種類や用法について理解する。 	<p>単元ごとに「学習活動」の①②をそれぞれおこない、単元を通じて5つの観点について評価をおこなう。</p>

年間指導計画（漢文）

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 入門 一 二 ■ 故事 漁夫の利 矛盾 など ■ 史伝 管鮑之交 晏子之御 ■ 訓読の基礎 ■ 否定・疑問・反語・感嘆 ■ 使役・受身 ■ 唐詩 絶句 律詩 ■ 漢詩の形式 ■ 発展問題の演習 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 漢文の調子に慣れるよう、繰り返し音読する。 <input type="checkbox"/> 漢字の読みや訓読の決まりに注意して、正しく書き下し文を書く。 <input type="checkbox"/> 基本的な句法を理解する。 <input type="checkbox"/> 詩にうたわれている情景と心情とを的確にとらえる。 <input type="checkbox"/> 漢詩のきまりを理解する。 	<p>単元ごとに「学習活動」の①②をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。</p>
後 期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 思想 論語 孟子 ■ 仮定・比較・選択 ■ 文章 雑説 ■ 限定・抑揚・願望 ■ 発展問題の演習 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 漢字の読みや訓読の決まりに注意して、正しく訓読する。 <input type="checkbox"/> 文章の主題や筆者の主張を読みとる。 <input type="checkbox"/> 基本的な句法を理解する。 <input type="checkbox"/> 指示語の内容や主語を明らかにして、正確に現代語訳する。 <input type="checkbox"/> 作品に描かれた人物、心情、情景などに関心を持ち、自分なりに調べ、読み味う。 	<p>単元ごとに「学習活動」の①②をそれぞれおこない、単元を通じて5つの観点について評価をおこなう。</p>

※この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 世界史 A

科目	学年	単位数	教科書	副教材
世界史 A	1年	2	世界史 A 新訂版 (実教出版)	グローバルワイド最新世界史図表 (第一学習社)

科目の目標	近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は単元ごとに課題、問いを設定し、探究していく活動を中心におこないます。 ・サブノートの空欄補充を教科書・資料集を活用しておこない予習、復習をします。 ・復習により基本的知識の定着をはかる必要があることから、単元ごとにまとめをしたり、問題集を解くなどして知識の定着を図りましょう。 ・書物やテレビなどにおいて歴史に親しむことが、歴史を理解する近道になります。いろいろな場面において歴史に触れてみましょう。 ・日頃より、新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持っておきましょう。 			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	世界の歴史についての理解をもとに、人類の課題を世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身につけるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現する。	諸地域世界の歴史的特質と交流の様相を把握し、近現代史を中心とする世界の歴史について、我が国の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身につけている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	世界史へのいざない	<input type="checkbox"/> 世界史学習の導入として、自然環境と人類の歴史に関わる課題や日本の歴史と世界の歴史のつながりに関わる主題を設定し考察する活動を通じて、世界史学習の基本的な技能に触れ、世界史への興味・関心を高める。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	序章 文明のはじまり 第1章 ユーラシアの諸文明の特質 第2章 ユーラシアの交流 第3章 一体化に向かう世界 第4章 アジアの繁栄と世界	<input type="checkbox"/> 東アジア、南アジア、東南アジア、西アジア、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカの諸文明に対する関心を高めるとともに、様々な資料を活用して諸文明の特質を理解する。 <input type="checkbox"/> ユーラシアの諸地域を結ぶ海と陸のネットワークの成長を把握する。 <input type="checkbox"/> 16世紀から18世紀までの世界の諸地域間の接触と交流、及びそれに伴う変容について追究し、また、これらを考察・比較して、その過程や結果を適切に表現することができる。	
後期	第5章 19世紀の世界の一体化と日本 第6章 二つの世界大戦 第7章 第二次世界大戦後の世界と日本 第8章 現代の世界 終章 持続可能な世界をめざして	<input type="checkbox"/> 18世紀後期から19世紀までのヨーロッパ・アメリカにおける工業化と国民形成の進行を理解し、その知識を身に付けるとともに、これらを考察・比較して、その過程や結果を適切に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 地球規模で一体化した現代世界の特質と展開に対する基本的知識を身に付けるとともに、それについて関心をもち、意欲的に追究し、人類の課題について考察を深める。 <input type="checkbox"/> 原子力の利用、情報科学など現代の科学技術の人類への寄与と課題、移民や女性・子どもなど様々な人々に関わる問題、地域紛争の原因とその歴史的背景などを追究し、人類の生存と環境、世界の平和と安全などについて考察するとともに、国際的な交流と協調の必要性に気付く。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学 I

科目	学年	単位数	教科書	副教材
数学 I	1年	3	改訂版 高等学校 数学 I (数研出版)	改訂版クリアー数学 I A (数研出版) 改訂版ニューアクションβ数学 I A (東京書籍)

科目の目標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。			
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動をします。 ②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。 ③クリアーやニューアクションβから類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析における考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組	○授業状況の観察 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

※数学 I の履修終了後、数学 II を履修します。

年間指導計画

学 期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前 期	第1章 数と式 1 式の計算 2 実数 3 1次不等式	<input type="checkbox"/> 整式を適切な形に整理することによって因数分解や計算ができる。 <input type="checkbox"/> 実数を数直線上の点の座標としてとらえることができる。また、実数の大小関係と数直線に関連付けて考えることができる。 <input type="checkbox"/> 不等式における解の意味を理解し、1次不等式の応用問題を解くことができる。 <input type="checkbox"/> 絶対値の意味から、絶対値を含む方程式、不等式を解くことができる。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	第2章 集合と命題	<input type="checkbox"/> ベン図などを用いて、集合を視覚的に表現して処理することができる。 <input type="checkbox"/> 条件と集合の関係を理解し、必要条件、十分条件を集合の関係でとらえることができる。 <input type="checkbox"/> 対偶、背理法を理解し、命題を証明するのにこれらを適切に用いることができる。	
	第3章 2次関数 1 2次関数とグラフ 2 2次関数の値の変化 3 2次方程式と2次不等式	<input type="checkbox"/> 平方完成を利用して、2次関数 $y = ax^2 + bx + c$ のグラフの軸と頂点を調べ、グラフをかくことができる。 <input type="checkbox"/> 2次関数の最大値、最小値を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 2次方程式の解の考察において、判別式 $D = b^2 - 4ac$ の符号と実数解の関係を理解し、利用することができる。 <input type="checkbox"/> 2次不等式の解と2次関数の値の符号を相互に関連させて考察できる。	
後 期	第4章 図形と計量 1 三角比 2 三角形への応用	<input type="checkbox"/> 三角比の相互関係を利用して、1つの値から残りの値が求められる。 <input type="checkbox"/> 座標を用いた三角比の定義を理解し、三角比の値から θ を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 余弦定理や正弦定理を用いて、三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができる。 <input type="checkbox"/> 測量や空間図形への応用では、適当な三角形に着目して考察できる。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	第5章 データの分析	<input type="checkbox"/> 箱ひげ図をかき、データの分布を比較することができる。 <input type="checkbox"/> 分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、それらに関する公式を用いて求めることができる。 <input type="checkbox"/> 相関係数は散布図の特徴を数値化したものであること、数値化して扱うことのよさを理解し、共分散と標準偏差から求めることができる。	
	課題学習	<input type="checkbox"/> 今までに学んだ内容に関する課題について、主体的に学習し、数学のよさを認識する。	

* この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学Ⅱ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
数学Ⅱ	1年	1	高等学校 数学Ⅱ (数研出版)	クリアー数学Ⅱ B (数研出版) 改訂版ニューアクションβ数学Ⅱ B (東京書籍)

科目の目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。			
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動をします。 ②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。 ③クリアーやニューアクションβから類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける考え方に興味をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組	○授業状況の観察 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
後期	第1章 式と証明 1 式と計算 2 等式・不等式の証明	<input type="checkbox"/> 二項定理を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 二項定理を3項の場合に適用することで、展開式の係数を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 除法で成り立つ等式を理解し、利用することができる。 <input type="checkbox"/> 分数式の約分、四則計算ができる。 <input type="checkbox"/> 恒等式と方程式の違いを理解している。 <input type="checkbox"/> 恒等式となるように、係数を決定することができる。 <input type="checkbox"/> $A = B$ と $A - B = 0$ が同値であることを利用して、等式を証明することができる。 <input type="checkbox"/> 同値な不等式を証明することで、もとの不等式を証明することができる。 <input type="checkbox"/> 平方の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。 <input type="checkbox"/> 相加平均・相乗平均の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこなない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	第2章 複素数の方程式 1 複素数と2次方程式の解 2 高次方程式	<input type="checkbox"/> 複素数と、その相等の定義を理解する。 <input type="checkbox"/> 複素数の四則計算ができる。 <input type="checkbox"/> 負の数の平方根を含む式の計算を、虚数単位 <i>i</i> を用いて処理することができる。 <input type="checkbox"/> 2次方程式の解が虚数になる場合もあることに興味を示し、2次方程式の解を考察しようとする。 <input type="checkbox"/> 解と係数の関係を使って、対称式の値や2次方程式の係数を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 2数を解とする2次方程式を作ることができる。 <input type="checkbox"/> 剰余の定理を利用して、整式を1次式や2次式で割ったときの余りを求めることができる。 <input type="checkbox"/> 因数定理を理解し、3次式や4次式を因数分解できる。 <input type="checkbox"/> 1の3乗根の性質に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。 <input type="checkbox"/> 因数分解や因数定理を利用して、高次方程式を解くことができる。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学 A

科目	学年	単位数	教科書	副教材
数学 A	1 年	2	改訂版 高等学校 数学 A (数研出版)	改訂版クリアー数学 I A (数研出版) 改訂版ニューアクションβ数学 I A (東京書籍)

科目の目標	場合の数と確率、図形の性質または整数の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。			
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動とをします。 ②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。 ③クリアーやニューアクションβから類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	場合の数と確率、図形の性質または整数の性質における考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	場合の数と確率、図形の性質または整数の性質において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	場合の数と確率、図形の性質または整数の性質において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	場合の数と確率、図形の性質または整数の性質における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組	○授業状況の観察 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第1章 場合の数と確率 1 場合の数 2 確率	<input type="checkbox"/> 和の法則、積の法則の利用場面を理解し、事象に応じて使い分けて場合の数を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 簡単な場合の数を、順列、円順列、重複順列に帰着させて求めることができる。 <input type="checkbox"/> 簡単な場合の数を、組合せに帰着させて求めることができる。 <input type="checkbox"/> 同じものを含む順列を、組合せで考察することができる。 <input type="checkbox"/> 確率の性質を理解し、和事象、余事象の確率の求め方がわかる。 <input type="checkbox"/> 独立な試行の確率を、具体的な例から直観的に考えることができる。 <input type="checkbox"/> 反復試行の確率を、具体的な例から直観的に考えることができる。 <input type="checkbox"/> 条件付き確率や確率の乗法定理を用いて確率を求めることができる。	単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	第2章 図形の性質 1 平面図形 2 空間図形	<input type="checkbox"/> 三角形の外心、内心、重心の定義、性質を理解する。 <input type="checkbox"/> チェバの定理、メネラウスの定理を、三角形に現れる線分比や図形の面積比を求める問題に活用できる。 <input type="checkbox"/> 三角形の存在条件や、辺と角の大小関係について理解する。 <input type="checkbox"/> 四角形が円に内接するための条件を利用して、図形の性質を証明できる。 <input type="checkbox"/> 円の接線と弦の作る角についての性質を利用して、角の大きさを求めることができる。 <input type="checkbox"/> 方べきの定理を理解する。 <input type="checkbox"/> 空間における2直線の位置関係やなす角を理解する。	
	第3章 整数の性質 1 約数の倍数 2 ユークリッドの互除法 3 整数の性質の活用	<input type="checkbox"/> 倍数の判定法について理解する。 <input type="checkbox"/> 自然数の正の約数やその個数を求めるのに、素因数分解が利用できることを理解する。 <input type="checkbox"/> 互いに素な整数の性質を利用して、簡単な命題を証明することができる。 <input type="checkbox"/> 整数をある正の整数で割った余りで分類して、簡単な整数の性質を証明することができる。 <input type="checkbox"/> 互除法の原理を理解し、互除法を用いて2数の最大公約数を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 1次不定方程式の解を1つ求め、それによりすべての整数解を求めることができる。 <input type="checkbox"/> n進法の数を10進法で、10進法の数をn進法で表すことができる。	
後期			単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 物理基礎

科目	学年	単位数	教科書	副教材
物理基礎	1年	2	考える物理基礎 (啓林館)	マイノート(教科書に付属)

科目の目標	物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。			
学習活動	<p>①授業前に教科書や図録を見ておくなど、能動的に授業準備をすることが理解を助けます。</p> <p>②【脳をアクティブに】 講義型授業では、先生の説明を自分なりにまとめ、ノートやプリントなどにメモをとります。</p> <p>③【わかったを実感】 対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めよう。</p> <p>④【できたを実感】 問題演習型授業では、正解そのものより、導出過程に目を向けよう。なぜ? どうして? という疑問を出発点に論理的に考えましょう。</p> <p>⑤【わかったを実感】 観察実験型授業では、主体的に取り組むことが大切です。班の人と協力して準備・実験・記録・データ処理・整理整頓を行いましょ。</p> <p>⑥【家庭学習への繋がり】 授業内に振り返りの時間がありますから、その日の学習内容について自分の理解度を確認めよう。</p> <p>⑦学習した内容を当日のうちに、問題集の基本問題を解いて定着を図る自主性をもとう。(復習に役立つ問題プリントなどの課題を与えることもあります。)</p> <p>⑧授業で学習する様々な物理現象を、身近な事柄に結びつけるとさらに理解が進みます。書物やテレビなどにおいて物理・科学に親しむことを推奨します。いろいろな場面において物理・科学に触れてみましょう。</p>			
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
	様々な物理現象について関心をもち、それを物理学的に探究することに意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	実験結果から導かれる原理や法則について思考を深めている。観察結果を適切に判断できる。	実験に必要な器具の操作に習熟し、実験結果をグラフなどを用いて適切に表現できる。考察した内容を科学的な表現で記述できる。	様々な物理現象に関する概念や原理・法則について、基本的な知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○定期考査	○授業状況の観察 ○実験レポート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第1部 物体の運動とエネルギー 第1章 物体の運動 第2章 力と運動 第3章 仕事とエネルギー	<input type="checkbox"/> 物体の運動の表し方を理解する。 <input type="checkbox"/> 物体の運動状態や物体のもつエネルギーの表し方を、実験や考察を通して理解する。	単元ごとに前述の「学習活動」の①～⑦をそれぞれおこなない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	第2部 熱 第1章 熱とエネルギー	<input type="checkbox"/> エネルギーの最も身近で重要な形態である熱の本質を理解する。 <input type="checkbox"/> 熱の現象とエネルギーの関係、熱の利用について理解する。	
	第3部 波 第1章 波の性質 第2章 音	<input type="checkbox"/> 音や電波、光、地震波などの波が身の回りであることを知り、波の一般的な性質を理解する。 <input type="checkbox"/> 音について詳しく理解する。	
後期	第4部 電気と磁気 第1章 静電気と電流 第2章 交流と電磁波	<input type="checkbox"/> 電気や磁気の性質を理解する。 <input type="checkbox"/> 電気や磁気の利用について、安全性と効率性を理解する。	単元ごとに前述の「学習活動」の①～⑦をそれぞれおこなない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	第5部 物理と私たちの生活 第1章 エネルギーとその利用 第2章 物理が拓く世界	<input type="checkbox"/> 自然界のエネルギーをどのように利用できるかを理解する。 <input type="checkbox"/> 物理学の発展がこれからの世界をどう切り拓いていくかを考える。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 化学基礎

科目	学年	単位数	教科書	副教材
化学基礎	1年	1	改訂 化学基礎 (第一学習社)	スクエア最新図説化学 (第一学習社)

科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育むとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。			
学習活動	<p>① 生徒自らが主体的に取り組む探究活動を重視し、実験の計画から結果の考察までの一連の活動を通して、自ら考えて活動し、考察をレポートにまとめたり、発表したりできるように心がけて学習に取り組みます。</p> <p>② 授業は板書をただ写すのではなく、ポイントのみを自分なりの書き方でまとめていきます。通常は教科書を読んでから授業に臨んでいるはずなので、疑問点を質問できるように整理しておき、教科担任に質問します。</p> <p>③ 配布された各種授業プリントや演習プリント、問題集等を活用して、授業がある日はしっかりと復習をします。</p> <p>※ ノート（授業プリント）をきちんと整理(ファイリング)し、教科書や図表がぼろぼろになるくらい、授業中もしっかり活用し、知識の定着を図ろう。</p> <p>※ 課題や小テスト等は、おろそかにしないようにしましょう。</p> <p>※ 次回学習するであろう教科書のページは、事前に複数回読んだのち、授業に臨もう。その際、教科書傍用問題集を活用して、教科書のまとめをしておこう。余裕があれば、問題演習にもチャレンジしよう。</p> <p>※ 日頃から、身の回りの化学物質や化学製品に関心を持っておきましょう。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
	自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<p>■第1章 物質の構成</p> <p>第1節 物質の成分と構成元素</p> <p>第2節 原子の構造と元素の周期表</p> <p>第3節 物質と化学結合</p>	<p><input type="checkbox"/> 物質は混合物と純物質、化合物と単体などに分類されることを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 元素について学習し、同素体の存在を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 物質の三態変化が熱運動の激しさが変わることによっておこることを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 原子の構造について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 元素の周期律と、周期表の成り立ちについて理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 元素の周期律についてグラフを作成し、データを解析できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 共有結合と分子の形成について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 主な共有結合の結晶について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 分子・金属結晶からできる物質とその利用について理解し、化学結合の種類によって、物質を分類できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 結晶の性質の違いについて、観察・実験を通して理解し、実験技能を習得する。</p>	<p>単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>
後期	<p>■第2章 物質の変化</p> <p>第1節 物質と化学反応式</p> <p>第2節 酸と塩基の反応</p>	<p><input type="checkbox"/> 元素の原子量を理解し、分子量、式量の求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 物質とその応用を理解する。アボガドロ定数について、観察・実験を通して理解し、実験技能を習得する。</p> <p><input type="checkbox"/> 物質の溶解と濃度について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 化学反応における量的関係について、観察・実験を通して理解し実験技能を習得する。</p> <p><input type="checkbox"/> 酸と塩基の定義、酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 中和反応、塩の種類を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 中和滴定の観察・実験を通して、中和反応の量的関係を理解し、実験技能を習得する。</p>	<p>単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 生物基礎

科目	学年	単位数	教科書	副教材
生物基礎	1年	2	生物基礎 (第一学習社)	生物基礎の必修整理ノート(文英堂) ニューステージ新生物図表(浜島書店) 生物の実習(岡山県高等学校理科協議会)

科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			
学習活動	<p>① 授業は単元ごとに課題、問いを設定し、探求していく活動を中心におこないます。</p> <p>② 整理ノートの空欄補充を教科書・図表を活用しておこない予習、復習をします。</p> <p>③ 復習により基本的知識の定着をはかる必要があることから、単元ごとにまとめをしたり、問題集を解くなどして知識の定着を図ります。</p> <p>※ 様々な生物の行動や機能などに興味を持ち、なぜだろうという疑問、知りたいと思う気持ちを大切にしてほしいと思います。</p> <p>※ 日頃より、新聞・テレビニュースなどにおいて、自然科学的出来事に関心を持っておきましょう。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
	新聞やニュースに出てくるような科学に関する話題にアンテナを張り、疑問に思うことがあれば、徹底的に調べ上げている姿勢を身に付けている。	目の前にある物から、最大限の情報を引き出し、それを多様に組み合わせることによって、答えのない課題に根拠のある解答を見い出せる。さらにそれを、聞き手が普段使っている言葉を用い、適切に表現し伝えることができる。	諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して科学的事象を追究する方法を身につけている。	普段の生活の中でふと疑問に思うことに出会ったとき、それを放っておくのではなく、自身が腑に落ちるまでしらべ抜くことで知識を深め、それを他者にアウトプットすることで理解を深めることができる。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	■ 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とその働き	<input type="checkbox"/> 多様な生物にも細胞構造をもつなど共通性があり、それが共通の起源をもつことに由来することを理解する。 <input type="checkbox"/> 酵素、光合成、呼吸の学習を通して、生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを理解する。 <input type="checkbox"/> DNAについて、構造および遺伝情報はその塩基配列にあることを理解する。 <input type="checkbox"/> 次に転写と翻訳の概要から、タンパク質の合成について理解する。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこなない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	■ 生物の体内環境の維持 第3章 生物の体内環境	<input type="checkbox"/> 動物の体内の細胞にとって、体液は一種の環境（体内環境）であり、体内環境がいかにしてほぼ一定に保たれているのか、また体内ではどのようなしくみがかはたらき、どのように調節が行われているのか、循環系・腎臓と肝臓・自律神経系と内分泌系、免疫について理解する。 <input type="checkbox"/> 私たち自身のからだにかかわる内容についてできるだけ身近な話題と関連づけながら理解する。	
後期	■ 生物の多様性と生態系 第4章 植生の多様性と分布 第5章 生態系とその保全	<input type="checkbox"/> 植生について、その構造や、遷移とそのしくみについて理解する。 <input type="checkbox"/> 地球上にはさまざまなバイオームが見られること、どのようなバイオームが分布するかは主に気温と降水量によって決まることを、世界と日本のバイオームを比較しながら理解する。 <input type="checkbox"/> 生態系の成り立ち、生態系における物質循環とエネルギーの流れについて理解する。 <input type="checkbox"/> 生態系はそのバランスが保たれていること、人類は生態系のバランスに大きな影響を与えていることなどを、身近な例から地球レベルの環境問題までを関連づけながら理解し自然環境を保全することが大切であることを理解する。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこなない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 体育（1年）

科目	学年	単位数	教科書	副教材
体育	1年	3	ステップアップ高校スポーツ (大修館)	現代高等保健体育 改訂版 (大修館)

科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。			
学習活動	①運動の合理的、計画的な実践や体育理論の学習を通して、知識や技能を高め、課題の解決に向けて取り組むことにより、運動のもつ特性や魅力に触れ、運動の楽しさや喜びを深く味わいます。 ②各種の運動を合理的に行うことにより、体力の向上を図り、目的に適した運動の計画や自己の体力、生活に応じた運動の計画を立て、主体的に取り組むことができる能力を養います。 ③運動における競争や協働の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たす、またチームやグループの意志決定に参画するなどの態度を身に付けます。また、健康・安全を確保して運動することができる能力や態度を身に付けます。			
評価の観点 及び 評価規準	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	知識・理解
	自ら進んで運動の楽しさや喜びを体得しようとする。また、公正・協力・責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して運動をしようとする。	運動の特性に応じて、自己やグループの能力に適した課題の解決を目指し、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力に適した課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の特性に応じた技能を身に付けている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。	運動の特性と学び方、安全の確保の仕方、生活における運動の意義、体ほぐし・体力の意義及び運動の心身にわたる効果に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○グループ内での意見交換 ○課題への取組	○授業状況の観察 ○定期考査	○授業状況の観察 ○パフォーマンステスト	○定期考査 ○感想レポート

年間指導計画

学 期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前 期	オリエンテーション 体づくり運動 陸上競技 バレーボール（兼球技大会練習） 選択制授業①（3種目を行う） ・陸上競技（全員） ・ゴール型球技（どちらか1つ） サッカー バスケットボール ・ネット型球技（どちらか1つ） バレーボール テニス	（通年で） <input type="checkbox"/> 集合時間を守ることができる。 <input type="checkbox"/> 規定の服装で活動することができる。 <input type="checkbox"/> 用具の準備ができる。 <input type="checkbox"/> グループノートを用いて、授業計画を綿密に立てることができる。 <input type="checkbox"/> 足のリズムを合わせて、大きな声を出し、列を揃えて、集団走ができる。 <input type="checkbox"/> 計画に沿って、グループで協力して活動することができる。	年間を通して、「学習活動」の①、②、③をおこなない、4つの観点について評価をおこなう。
後 期	選択制授業②（以下から1つ） （グラウンド） ・サッカー ・バスケットボール ・ソフトボール ・バレーボール ・テニス ・陸上競技 （体育館） ・バドミントン ・卓球	<input type="checkbox"/> 意欲的に練習に取り組むことができる。 <input type="checkbox"/> グループ全員の技能上達を目指して、互いにアドバイスをし合うことができる。 <input type="checkbox"/> 健康面や安全面に配慮して、取り組むことができる。	
前 期 末 と 後 期 末	体育理論 ・体育理論のオリエンテーション ・スポーツの歴史と変容 ・スポーツの技術、戦術、ルールの変化 ・オリンピックムーブメントとドーピング ・スポーツの経済的効果とスポーツ産業	<input type="checkbox"/> 集合時間を守ることができる。 <input type="checkbox"/> グループ内でしっかり発言できる。 <input type="checkbox"/> グループ内で他の意見を聞き、自分の考えを深めることができる。 <input type="checkbox"/> グループ内の意見をまとめて、全体へ向けて発表できる。 <input type="checkbox"/> 正しい知識を身につけることができる。	「学習活動」の①をおこなない、4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 保健

科目	学年	単位数	教科書	副教材
保健	1年	1	現代高等保健体育 改訂版 (大修館書店)	図説 現代校保健体育 (大修館書店)

科目の目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。		
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイムが鳴るまでに授業の教材を準備しておきましょう。 ・課題学習では、先生からの注意事項をよく聞き、指示に従って学習を進めましょう。 ・課題学習では、班の人と協力して準備・レポート作成・発表を行いましょ。 ・欠席した場合は、その日のノート（プリント）を級友から借りて写して理解し、分からなかったら先生に聞きに行きましょう ・課題の提出期限は守りましょう。 		
評価の観点 及び 評価規準	健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
	自他の心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、進んで学習に取り組もうとする。	自他の心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に考え、選択すべき行動を適切に判断している。	健康・安全の意義を理解するとともに、心身の機能の発達や心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身につけている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○レポートやプリント ○グループでの意見交換 ○ノート 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○定期考査 ○ノート 	○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<p>現代社会と健康</p> <p>ア)健康の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民の健康水準と疾病構造の変化 ・健康の考え方と成り立ち ・様々な保健活動や対策 <p>イ)健康の保持増進と疾病の予防</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病と日常の生活行動 ・喫煙、飲酒と健康 ・医薬品の正しい使用、薬物乱用と健康 	<p>・オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 死亡率、平均寿命などの健康指標を通して健康水準の向上や疾病構造の変化について理解する。 <input type="checkbox"/> ヘルスプロモーションの考え方を通して生活の質や生き甲斐を重視する健康の考え方、個人の実践力の育成と環境づくりを理解する。 <input type="checkbox"/> 健康の保持増進を図るためにはライフステージやライフスタイルに応じて各種の保健活動が行われていることを理解する。 <input type="checkbox"/> 健康の保持増進と生活習慣について理解し、生活習慣病の予防には適切な意志決定と行動選択の必要性を理解する。 <input type="checkbox"/> 飲酒・喫煙による健康への影響や疾病などの関連を理解し、適切な意志決定と行動選択の必要性を理解する。 <input type="checkbox"/> 医療品の有効性や副作用及び正しい使用方法について、また薬物乱用が及ぼす健康や社会への影響を理解し、決して行わないことの必要性を理解する。 	<p>講義型授業や、班の人と協力して準備・レポート作成・発表を行う課題学習を行い、3つの観点について評価を行う。</p>
後期	<p>イ)健康の保持増進と疾病の予防</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症とその予防 <p>ロ)精神の健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康に関わる意志決定と行動選択 ・欲求と適応機制 ・心身の相関 ・ストレスの対処 <p>イ)交通安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通事故の現状 ・交通社会に必要な資質と責任 ・安全な交通社会づくり <p>ロ)応急手当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応急手当の意義 ・心肺蘇生法 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> エイズ・結核など近年、感染症の新たな問題が起こっていることと、その予防のためには社会的な対策とともに個人の適切な行動が必要であることを理解する。 <input type="checkbox"/> 健康の保持増進のためには適切な意志決定や行動選択が必要で、それらには個人の知識・価値観・人間関係等が関連していることを理解する。 <input type="checkbox"/> 人間には様々な欲求があり、欲求が満たされない時には精神の変化が現れ、様々な適応機制が働き、精神の安定を図ろうとすることを理解する。 <input type="checkbox"/> 人間の精神と身体は密接な関連を持っていることを身体的変化・精神的変化の影響を両面から理解する。 <input type="checkbox"/> ストレスの原因には多様な要因があることを知り、自分なりのストレスの対処法を身につけることが重要であることを理解する。 <input type="checkbox"/> 交通事故の現状、事故の原因には多様な事象が関連していることを認識する。 <input type="checkbox"/> 法的な整備、施設設備の充実など安全な交通社会づくりの必要性を認識する。 <input type="checkbox"/> 自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会環境を作るための応急手当の意義を理解する。 <input type="checkbox"/> 心肺蘇生法の原理や方法を理解し、実践できる。 (レザシアンを使用した実習) 	<p>講義型授業や、班の人と協力して準備・レポート作成・発表を行う課題学習を行い、3つの観点について評価を行う。</p>

指導と評価の年間計画 音楽 I

科目	学年	単位数	教科書	副教材
音楽 I	1 年	2	MOUSA 1 (教育芸術社)	なし

科目の目標	音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。			
学習活動	<p>・毎回の授業で、表現（歌唱・器楽・創作）と鑑賞の分野から、学習活動を行います。</p> <p>・歌唱と器楽では、一人での演奏や少人数でのアンサンブル、全員での合唱というように、様々な編成での表現に取り組みます。仲間と聴き合い、演奏におけるアイデアを積極的に試し、表現力を伸ばしましょう。</p> <p>※「音楽を聴くのは好き」という人は多いのですが、授業での音楽鑑賞は、聴いて楽しむことに留まりません。その音楽に感情を動かされる仕組み、その音楽が登場した時の社会の様子、作曲家の人生と考え方の関わり、といった事柄にも注目します。得た知識から分析したりイメージしたりすることにより、もっと音楽に近づき、新たな魅力に気づければと願っています。</p> <p>※楽譜には、音の高さやリズムだけでなく、多くの情報が記されています。より深く読めるようになると、記号や文字では記されていないことも読み取れるようになります。小中学校で学んだ基礎的なことも学習しますので、楽譜を読むのが苦手な人もこの機会に読めるようになり、表現や鑑賞にいかしましょう。</p> <p>【音楽関係の進路について】 音楽関係の進学（教育学部の音楽専修、音楽大学、専門学校など）は、入試で実技試験が課せられます。実技の能力は短期間で身に付くものではありませんので、早めに準備に取りかかってください。実技の必要な進路を考えている人は、できるだけ1年生のうちに教科担当に相談してください。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
	音楽を愛好し、音や音楽に関心をもち、意欲的、主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を働かせて、音楽の諸要素を知覚し、音楽のよさや美しさを感じ取り、創造的な音楽活動の工夫をする。	自己のイメージをもち、創造的な表現をするための技能を身に付けている。	多様な音楽を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○鑑賞レポート	○授業状況の観察 ○ワークシート ○実技テスト ○演奏発表	○授業状況の観察 ○実技テスト ○筆記テスト ○演奏発表	○授業状況の観察 ○鑑賞レポート ○筆記テスト

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 歌唱 <ul style="list-style-type: none"> 発声の基礎 校歌 独唱曲 ■ 器楽 <ul style="list-style-type: none"> アルトリコーダーの奏法 ■ 創作 <ul style="list-style-type: none"> 音楽理論 旋律の変奏 ■ 鑑賞 <ul style="list-style-type: none"> 舞台芸術 (オペラ、ミュージカル、 日本の伝統芸能) ■ 鑑賞 <ul style="list-style-type: none"> オーケストラ作品 協奏曲 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 歌唱表現を深めていくために必要な、基礎的な技術を身に付ける。 <input type="checkbox"/> 歌詞の意味を正しく理解し、旋律と歌詞の両面から捉えた表現を考え、それらをふまえて歌うことができる。 <input type="checkbox"/> 呼吸法や運指を理解し、音色やアーティキュレーション等の変化をつけて表現する。 <input type="checkbox"/> 基礎的な記譜方法を理解する。 <input type="checkbox"/> 様々なリズムを変奏に応用する。 <input type="checkbox"/> 作曲者・出演者・演出家などの意図、作品の特徴などについての考察を通し、舞台芸術や伝統文化に対する理解を深める。 <input type="checkbox"/> それぞれの文化の特徴を把握し、比較しながら、そのよさを味わう。 <input type="checkbox"/> オーケストラの楽器の特徴や、演奏形態による表現の広がりを楽しむ。 	<p>歌唱と器楽では、様々な編成での表現に取り組む。作品の創作にも取り組む。年間を通じて、4つの観点について評価をおこなう。</p>
後期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 歌唱 <ul style="list-style-type: none"> カノン 2部合唱 混声3部合唱 ■ 器楽 <ul style="list-style-type: none"> ギター独奏（旋律） ギター・アンサンブル ■ 歌唱 <ul style="list-style-type: none"> 混声3部合唱 卒業式の歌 ■ 器楽・創作 <ul style="list-style-type: none"> ギター弾き歌い 音楽理論（音名・コード） 篠笛 ■ 鑑賞 <ul style="list-style-type: none"> 音楽史 様々なジャンルの音楽 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 歌い合わせる力を伸ばし、一体感のある音色で、各パートと全体の調和を図る。 <input type="checkbox"/> 言葉のもつ語感を音楽と関わらせ、表現を工夫する。 <input type="checkbox"/> ギターの基本的な奏法を学習し、奏法の工夫による演奏効果を表現に活用する。 <input type="checkbox"/> アンサンブルにおける調和を工夫する。 <input type="checkbox"/> 美しいハーモニーづくりなどを探求しながら表現を工夫し、合唱の深い楽しみを味わう。 <input type="checkbox"/> コードの仕組みについて理解し、その働きを感じ取りながら弾き歌いで表現する。 <input type="checkbox"/> 篠笛特有の奏法に触れ、簡単な曲を演奏体験する。 <input type="checkbox"/> 音楽史における特徴的な作品を味わい、音楽と人との関わりについて考察する。 	<p>歌唱と器楽では、様々な編成での表現に取り組む。作品の創作にも取り組む。年間を通じて、4つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 美術 I

科目	学年	単位数	教科書	副教材
美術 I	1年	2	高校生の美術 1 (日本文教出版)	なし

科目の目標	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深める。			
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・絵の具など基本的な画材の扱い方や知識を学びつつ、主に絵画やデザイン、立体造形などの作品を制作します。 ・古今東西の美術作品を鑑賞し、自分自身にとっての「美しさとは何か」を考えます。 <p>※書籍や各メディア、美術館などいろいろな場面において美術作品に親しみ、触れることで、「自分と美術」や「社会と美術」のつながりについて考えましょう。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を設定し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付けて表している。	日常生活における美術やデザインの持つ役割や美術文化について幅広く理解し、その価値を考え、作品のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<p>■美術とは何か</p> <p>■ 絵画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デッサン ・絵の具について ・模写（油彩） ・鑑賞 <p>■ 夏課題レポートの発表</p> <p>■ 彫刻</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立体制作（彫像） ・アクリル絵の具の使い方 ・彩色 	<p><input type="checkbox"/> 小、中の図工・美術の学習を振り返り、高校の美術 I へのイメージを持ち美術の学びの広がりや意味について考えることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> よく見て、感じて描く。鉛筆のグラデーションによる濃淡の幅を広げる。</p> <p><input type="checkbox"/> さまざまな絵の具とその性質について理解し油絵の具の基本的な扱い方を習得する。</p> <p><input type="checkbox"/> 他者の作品を鑑賞することで、多様な表現方法があることを知り、美術に対する理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 夏休み中に展覧会、美術館に行くことで、美術館の役割や楽しみ方について考えを深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 立体を多面的に捉え、素材の特性を生かして計画的に制作に取り組むことができる。</p> <p><input type="checkbox"/> アクリル絵の具の特性を理解し、さまざまな混色や塗り方を習得する。</p>	<p>様々な創作活動をおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>
後期	<p>■デザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞 ・樹脂によるマグネット制作 ・原型制作（塑像） ・シリコンでの型取り <p>■ 映像メディア表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞 ・ストーリー作り ・ぱらぱら漫画制作 <p>■ これからの私と美術</p>	<p><input type="checkbox"/> プロダクトデザインの作例を鑑賞し、人間が作った道具と美について考えたことをまとめる。</p> <p><input type="checkbox"/> 個性豊かに発想し、独自のアイデアを構築し、創造的に表現することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 型取りの原理を理解して計画的に制作に取り組むことができる。</p> <p><input type="checkbox"/> アニメーションについて関心を持ち、創意工夫しながら意欲的に活用し、制作に取り組むことができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 美術の多様な表現方法について知り、映像メディアの役割等についての理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> これからの美術との関わりを考え「美術とは何か」について1年間の学びとともに振り返る。</p>	<p>様々な創作活動をおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>

* この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 書道 I

科目	学年	単位数	教科書	副教材
書道 I	1年	2	書 I (光村図書)	なし

科目の目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。			
学習活動	<p>・「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」「篆刻」の4つの分野を幅広く学びます。</p> <p>・授業は、臨書を中心に行います。「臨書」とは、すぐれた古典を手本にして書き、その技法を学ぶことです。臨書を通して、用筆・運筆、字形や作品全体の構成など、書の基礎的な知識と、幅広い表現技法を身に付けます。そして、臨書で身に付けた力を活かして創作にも取り組みます。</p> <p>※作品を「書く」ことだけでなく、「みる」ことも大切です。さまざまな書作品の鑑賞を通して、その作品のよさや美しさについて考え、味わい、自分の表現に活かしていきましょう。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	書への関心・意欲・ 態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の 技能	鑑賞の能力
	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活における書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<p>■ 書写から書道へ</p> <p>■ 漢字の書（楷書） さまざまな楷書作品の臨書と鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九成宮醜泉銘 ・孔子廟堂碑 ・雁塔聖教序 ・顔氏家廟碑 ・牛欄造像記 <p>・楷書創作</p> <p>■ 篆刻</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の姓名印をつくる 	<p><input type="checkbox"/> 「書写」と「書道」の関連と違いについて理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 各古典の特徴を理解し、用筆法を習得する。</p> <p><input type="checkbox"/> 書道史をはじめとする理論を学び、古典作品の背景を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 字典の使い方と書体の判別ができるようになる。</p> <p><input type="checkbox"/> 古典臨書で学んだ用筆法や運筆法を活かして漢字創作を行う。</p> <p><input type="checkbox"/> 印稿を工夫し、創造的に表現する。</p> <p><input type="checkbox"/> 執刀法を身につけ、彫り残しなく最後まで仕上げることができる。</p>	<p>様々な創作活動をおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>
後期	<p>■ 漢字の書（行書、草書、隸書）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蘭亭序（条幅作品の制作） ・風信帖 ・真草千字文 ・曹全碑 <p>■ 仮名の書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単体 ・連綿 ・蓬萊切 ・高野切第三種 <p>■ 漢字仮名交じりの書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で選んだ言葉を書く ・完成作品の鑑賞会 <p>■ 生活の中の書</p>	<p><input type="checkbox"/> 蘭亭序及び、王羲之について学び、作品にまつわるエピソードや古典の概要を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 行書、草書、隸書体の特徴を理解し、基礎的な表現ができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 仮名の変遷、種類、歴史的背景を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 単体・連綿の表現方法を身につける。</p> <p><input type="checkbox"/> 文字群と余白の配置などによって変わる効果を理解し、表現を構想することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 古典を応用した書の幅広い表現方法を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 運筆・用筆の違いによる変化を理解し、作品へ生かすことができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 文字と余白の関係を理解し、全体構成を工夫することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 制作の意図や表現の工夫点、他の生徒の作品を鑑賞し、自分の言葉で表現することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 冠婚葬祭の書のマナーを身に付けることができる。</p>	<p>様々な創作活動をおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

笠岡高等学校 2019年度 CAN-DO リスト

【参考資料】 CEFR-J 京外国語大学 投野由紀夫 研究室

①卒業時に身につけさせたい英語力

Reading	社会性のある話題の英文を初見で毎分120語程度の速さで読み、概要を理解することができる。
Listening	様々な話題の比較的長い会話やモノローグを聞き、毎分140語程度の速さではっきりとした言葉で話されれば概要を理解することができる。
Writing	社会性のある話題などの与えられたトピックについて、自分の意見や感想を100語程度の英語で書くことができる。
Speaking	社会性のある話題などの与えられたトピックについて、まとまった考えや感想を英語で話すことができる。

②高校3年間の到達目標

技能 段階	入学前	1年	2年	3年
Reading	簡単な語を用いて書かれた、興味のあるトピックに関する文章を、イラストや写真を参考にしながら理解することができる。	簡単な語を用いて書かれた人物描写・場所・日常生活・文化などの、説明文を理解することができる。	簡単な英語で表現されている実用的・具体的で、内容が予想できるものから必要な情報を探することができる。	学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の要点を理解することができる。
	簡単な語を用いて書かれた、挿絵のある短い物語を理解することができる。	簡単な語を用いて書かれた短い物語や伝記などを理解することができる。	日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。	構成がはっきりとした物語の筋を理解することができ、最も重要なエピソードや出来事は何か、それらに関して重要な事は何かを認識することができる。
Listening	ゆっくりはっきりと話されれば、身の回りの事柄に関連した句や表現を理解することができる。	ゆっくりはっきりと放送されれば、簡潔なアナウンスを理解することができる。	ゆっくりはっきりと指示されれば、一連の行動を、指示通りに行動することができる。	ゆっくりはっきりと話されれば、外国の行事や習慣などに関する説明の概要を、理解することができる。
	簡単な用をたすのに必要な指示や説明を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。	明確で具体的な事実を、はっきりとした発音で指示されれば、要点を理解することができる。	視覚補助のある作業の指示を、ゆっくりはっきりと話されれば、聞いて理解することができる。	自分の周りで話されている少し長めの議論でも、はっきりとした発音であれば、その要点を理解することができる。
Writing	自分の経験について、辞書を用いて、短い文章を書くことができる。	日常的・個人的な内容であれば、簡単な英語で書くことができる。	身の回りの出来事や自分に関係することについて、個人的経験や自分に直接必要のある領域での事柄であれば、簡単な描写ができる。	自分に関わりのあることを、身近な状況で使われる語彙・文法を用いて、ある程度まとまりのあるかたちで、描写することができる。
	趣味や好き嫌いについて複数の文を用いて、簡単な語彙や基礎的な表現を使って書くことができる。	文と文を簡単な接続詞でつなぎ、基礎的・具体的な語彙、簡単な句や文を使った簡単な英語で、まとまりのある文章を書くことができる。	聞いたり読んだりした説明文や物語であれば、基礎的な日常生活語彙や表現を用いて、感想や意見などを短く書くことができる。	身近な状況で使われる語彙・文法を用いれば、筋道を立てて、作業の手順などを示す説明文を書くことができる。
Speaking	身近なトピックに関して、はっきりと話されれば、簡単な質疑応答をすることができる。	つなぎ言葉や基本的な表現を使って、単純な道案内をすることができる。	簡単な英語で、意見や気持ちをやりとりしたり、自分の意見を伝えたり、物や人を比べたりすることができる。	身近なトピックについて、簡単な英語を幅広く使って意見を表明し、情報を交換することができる。
	基本的な語や言い回しを使って、人を誘ったり、誘いを受けたり、断ったりすることができる。	視覚的補助を利用しながら、基本的な情報を伝え、また、簡単な意見交換をすることができる。	予測できる日常的な状況ならば、さまざまな語や表現を用いてやり取りができる。	個人的に関心のある具体的なトピックについて、簡単な英語を多様に用いて、会話を続けることができる。
	前もって発話することを用意した上で、限られた身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な句を限られた構文に用い、複数の文で意見を言うことができる。	一連の簡単な語句や文を使って、自分の趣味や特技に触れながら自己紹介をすることができる。	視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な語句や文を使って、自分の生活に直接関連のあるトピックについて、短いスピーチをすることができる。	使える語句や表現を繋いで、自分の考えを順序だて、話を広げながら、ある程度詳しく語るすることができる。
	前もって発話することを用意した上で、日常生活に関する簡単な事実を、簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、複数の文で描写できる。	視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な句や文を使って、身近なトピックについて短い話をすることができる。	一連の簡単な語句や文を使って、意見や行動計画を、理由を挙げて短く述べるることができる。	身近なトピックや自分に関心のある事柄について、自分の考えを事前に準備して、メモの助けがあれば、聞き手にわかりやすく語るすることができる。
CEFR-J	A1.3	A2.1	A2.2	B1.1
数値目標		GTEC TOTAL SCORE 440	GTEC TOTAL SCORE 480	GTEC TOTAL SCORE 500
資格目標	英検3級	英検準2級	英検準2級～2級	英検2級
履修科目		コミュニケーション英語Ⅰ、英語表現Ⅰ	コミュニケーション英語Ⅱ、英語表現Ⅱ	コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅱ

※3年次の数値目標はGTEC受験時(6月)の数値です。

指導と評価の年間計画 コミュニケーション英語 I

科目	学年	単位数	教科書	副教材
コミュニケーション英語 I (英語 I A・C)	1年	3	Revised LANDMARK English Communication I (啓林館)	・総合英語 Vision Quest(啓林館) ・ユメタン®(アルク) ・スーパーアンカー英和辞典(学研)

科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。			
学習活動	<p>1時間に Lesson の 1 partを進むことを基本とする。</p> <p>①予習の確認 ②新出単語・フレーズ・文法事項の確認 ③内容の理解 ④音読</p> <p>さまざまな形式で本文を読んでいくことで、英語を身体、頭の中に取り入れ (input) て、繰り返し、英語を深く自分の中に定着させる(intake)。目から情報を入手し、自分の声を耳で聞くだけでなく、口から発音したり、時に手で書いてみたり(output)とあらゆる感覚を駆使して、学習した英語を定着させる。</p> <p>⑤まとめ 習った②③の内容の確認と次の時間への連絡等</p>			
評価の観点 及び 評価規準	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
	コミュニケーションに関心を持ち、積極的な態度で言語活動に参加することで、自己を表現したり、コミュニケーションを図ろうと努力する。	与えられた状況において英語で適切に話したり伝えたり、自らの意見を適切な表現を用いて伝えたりすることができる。 自分や与えられた課題についてパラグラフの構成に基づいて英語で文章を書く手順を理解し、要約文を書くことができる。	話し相手の言ったことに、英語で適切に応答したり、発表者や発言者の言ったことを正しく聞き取ることができる。 つなぎ言葉の使い方やパラグラフの構成を理解している。 文章の要点をつかむことができる。	様々なトピックについて内容やその背景等を理解したり、各レッスンで学んだ文法・表現を理解したりし、知識として定着させている。
評価方法	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○授業ノートの点検 ○課題の点検	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査、課題考査	○授業態度の観察 ○授業ノートの点検 ○小テスト ○課題の点検 ○定期考査、課題考査	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○小テスト ○課題の点検 ○定期考査、課題考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	Preparatory Lesson	<input type="checkbox"/> 英語を理解し、英語で表現する態度や能力を養う。(そのため、本文の単語については辞書で徹底的に理解して授業に臨み、文法・構文については、疑問を感じた点について、必ずチェックし、マーカーもしくは付箋をつけておく。) <input type="checkbox"/> 各課で学習する文法や表現を理解する。(口頭練習を繰り返し定着させていく。) <input type="checkbox"/> 本文中の文法・構文について他の用例を身に付ける。 <input type="checkbox"/> 自分の考えや経験を、学んだ表現を用いてまとめた英語で表現することができる。 <input type="checkbox"/> 主な文法項目 前期 ・動名詞 ・不定詞 ・分詞の後置修飾 ・現在完了形 ・関係代名詞 ・S+V+疑問詞節 ・S+V+O+疑問詞節 ・seemの用法 ・現在完了進行形 後期 ・過去完了形 ・使役動詞+O+動詞の原形 ・前置詞+関係代名詞 ・関係副詞 ・関係代名詞what ・分詞構文 ・仮定法過去 ・倍数表現 ・関係代名詞の非限定用法 ・仮定法過去完了	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、音読練習や意見交換などさまざまなペアワークやグループワークでのアウトプットを通して、4つの観点について評価をおこなう。
	Lesson 1 What Can Blood Type Tell US?		
	Lesson 2 Curry Travels around the World		
	Lesson 3 School Uniforms		
	Lesson 4 Gorillas and Humans		
Lesson 5 "gr8" or great?			
後期	Lesson 6 Biodiesel Adventure		
	Lesson 7 Eco-tour on Yakushima		
	Lesson 8 Mariko Nagai, Super Interpreter		
	Lesson 9 Space Elevator		
	Lesson 10 Friendship over Time		

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 英語表現 I

科目	学年	単位数	教科書	副教材
英語表現 I (英語B)	1年	2	Vision Quest English Expression I Advanced (啓林館)	・Vision Quest English Expression I Advanced Workbook (啓林館) ・総合英語 Vision Quest (啓林館)

科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。			
学習活動	<p>①例文の内容を理解し、自然な音読ができるまで練習し、暗唱する。</p> <p>②文法項目の確認と、Build-up/Expressionの文法項目/表現の理解</p> <p>③Practiceなどを活用し、文法項目と表現の定着と、日本語から英語への自動化を図る。</p> <p>④学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどの主題について、話し合ったり、各自の考えや説明を文章として簡潔に表現する。</p> <p>以下の学習に対する姿勢が、日々の学習活動①～④を支える大切な柱となります。</p> <p>1)「予習－授業－復習」のサイクルを習慣化する あらかじめ自分の理解できることとできないことを明確にして授業に臨むことが大切。予習、授業で内容を十分に理解した上で、徹底した復習で定着させることが大切です。この学習サイクルを身につけ努力を積み重ねていけば、英語を必要とする様々な場面で実力を発揮できます。</p> <p>2)授業中はしっかり活動する 英語の勉強は先生の解説を聞くだけの受身的な姿勢では力がつきません。学習した内容を音読練習や意見交換など様々なペアワークやグループワークでのアウトプットを通して、英語で考え、英語を使うことになっていきましょう。クイックレスポンスを意識して積極的に活動し、英語を使うことに慣れていきましょう。</p> <p>3)習った日に復習する 習ったところは声に出して音読をし、英語を身体、頭の中に取り入れ(input)、さらに繰り返し音読をすることで英語を深く自分の中に定着させます(intake)。目から情報を入力するだけでなく、口から発音し、自分の声を耳で聞き、ときに書いてみてあらゆる感覚を駆使して、学習した英語を自分の中に定着させましょう。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
	コミュニケーションに関心 を持ち、積極的に言語 活動を行い、コミュニケ ーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたり して、情報や考えなどを 適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだり して、情報や考えなどを 的確に理解している。	英語やその運用につい ての知識を身に付けて いるとともに、言語の背 景にある文化などを理 解している。
評価方法	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の 観察 ○授業ノートの点検 ○課題の点検	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の 観察 ○課題の点検 ○定期考査、課題 考査	○授業態度の観察 ○授業ノートの点検 ○小テスト ○課題の点検 ○定期考査、課題 考査	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の 観察 ○小テスト ○課題の点検 ○定期考査、課題 考査

年間計画（英語表現Ⅰ）

学 期	学 習 内 容	学習のねらい (各課で以下の項目を学習)	学習活動
前 期	<ul style="list-style-type: none"> ■はじめに 英語表現Ⅰの導入 ■Lesson 1 Topic: 紹介 Build-up: 文の種類 ■Lesson 2 Topic: 興味・関心 Build-up: 文型と動詞 □Follow-up 1 修飾語 □Show & Tell 紹介・発表 ■Lesson 3 Topic: 旅行 Build-up: 時制 ■Lesson 4 Topic: スポーツ Build-up: 完了形 □Useful Words & Phrases ■Lesson 5 Topic: 食事 Build-up: 助動詞 ■Lesson 6 Topic: 観光 Build-up: 受動態 □Follow-up 2 動詞の分類 □Linking Words つなぎの言葉 ■Lesson 7 Topic: 交際 Build-up: 不定詞 	<ul style="list-style-type: none"> □各課で学習する文法や表現を使って、文章を書くことができるようにする。 □各課で学習する文法や表現を理解し、話したり聞いたりすることができるようにする。 □与えられた日本語を、学んだ表現を含む英語の文で書く／話すことができるようにする。 □前課で学んだ表現を、文脈の中で用いることができるようにする。 □自分の考えや経験を、学んだ表現を用いてまとめた英語で表現することができるようにする。 □与えられた題材を通じて、いろいろな表現についての意味・用法を理解し、それらを場面に応じて適切に使い分けて表現する力を育成する。 	<p>单元ごとに、「学習活動」の①、②、③、④を音読練習やペアワークを通しておこない、英語を使うこと、さらには英語で表現すること（output）を積極的に行っていく活動を通じて、4つの観点について評価をおこなう。</p>
後 期	<ul style="list-style-type: none"> ■Lesson 8 Topic: 娯楽 Build-up: 動名詞 ■Lesson 9 Topic: ルール Build-up: 分詞 □Follow-up 3 準動詞のまとめ □Paragraph パラグラフ ■Lesson 10 Topic: 文化 Build-up: 関係詞 ■Lesson 11 Topic: 社会問題 Build-up: 比較 ■Lesson 12 Topic: 悩み事 Build-up: 仮定法 □Follow-up 否定表現 □Follow-up 接続詞 □Summary 要約・要点 		

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 GLOBAL ENGLISH I

科目	学年	単位数	教科書	副教材
GLOBAL ENGLISH I	1年	1		<ul style="list-style-type: none"> ・Revised LANDMARK English Communication I(啓林館) ・Pair & Share①(いいずな書店) ・ユメタン②(アルク) ・スーパーアンカー英和辞典(学研)

科目の目標	情報を伝えたり、意見交換をしたりするための基本となる知識を身につけ、自分の意見や考えをまとまりのある英語でアウトプットしたりすることで、スピーキングを中心とした5領域にわたる英語運用能力の基礎作りをする。			
学習活動	(1) インタラクション (2) サマライジング (3) エッセイライティング (4) プレゼンテーション			
評価の観点 及び 評価規準	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
	コミュニケーションに関心を持ち、積極的な態度で言語活動に参加することで、自己を表現したり、コミュニケーションを図ろうと努力する。ペアワーク・グループワークなどでの活動を通じて、英語を聞いて反射的に答えようとする姿勢がある。	与えられた状況において英語で適切に話したり伝えたり、自らの意見を適切な表現を用いて伝えたりすることができる。	話し相手の言ったことや質問に、英語で的確かつ簡潔に応答したり、発表者や発言者の言ったことを正しく聞き取ったりすることができる。	様々なトピックについて内容やその背景等を理解したり、各レッスンで学んだ文法・表現を理解したりし、知識として定着させている。
評価方法	<input type="checkbox"/> 授業態度の観察 <input type="checkbox"/> 調査・発表態度の観察 <input type="checkbox"/> 授業ノートの点検 <input type="checkbox"/> 課題の点検 <input type="checkbox"/> パフォーマンステスト	<input type="checkbox"/> 授業態度の観察 <input type="checkbox"/> 調査・発表態度の観察 <input type="checkbox"/> 課題の点検 <input type="checkbox"/> パフォーマンステスト	<input type="checkbox"/> 授業態度の観察 <input type="checkbox"/> 授業ノートの点検 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> 課題の点検 <input type="checkbox"/> パフォーマンステスト	<input type="checkbox"/> 授業態度の観察 <input type="checkbox"/> 調査・発表態度の観察 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> 課題の点検 <input type="checkbox"/> パフォーマンステスト

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	Lesson 1 Morning Lesson 2 Breakfast Lesson 3 Going to School Lesson 4 Waiting for the train Lesson 5 In the Classroom Lesson 6 P.E. Class Lesson 7 Lunch Time Lesson 8 Health Check Lesson 9 Word Quiz Lesson 10 Art Class Lesson 11 Cleaning Time Lesson 12 After School Lesson 13 Soccer Club Lesson 14 On the Way Home Lesson 15 Getting ready for Dinner Lesson 16 Cleaning Up Lesson 17 Watching TV Lesson 18 Studying Lesson 19 Bath Time Lesson 20 Bedtime	<input type="checkbox"/> 英語を理解し、英語で表現する態度や能力を養う。英語の質問に対して反射的に答える習慣を身につけると同時に、的確かつ簡潔に答える能力を高め、さらにスピーキングテスト等でも落ち着いて話せるようになることを目指す。そのため、授業中は英語力にかかわらず、ペア（グループ）ワークに英語を用いて意欲的かつ積極的にとろうとする姿勢が求められる。分からない単語やフレーズについても辞書で調べ、次回には必ず答えられるように徹底的に復習する。 <input type="checkbox"/> 各課で学習するフレーズや表現を理解し、口頭練習を繰り返して定着させていく。 <input type="checkbox"/> 与えられた教材の内容理解 <input type="checkbox"/> 自分の考えや経験を、学んだ表現を用いてまとめた英語で表現することができるようにする。 <input type="checkbox"/> 前期 主にインタラクション 左段の学習内容にあるように起床から就寝までの1日の内容をもとに、表現力や会話力を高める。 <input type="checkbox"/> 後期 サマライジング・エッセイライティング・プレゼンテーション 既習の教科書の内容をテーマに本文の内容を簡潔な英語で要約し、それについて意見を述べる演習活動を行う。さらにそれらを発展させ、簡単な文章にまとめ、発表する力を養う。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれ行い、単元を通じて4つの観点について評価を行う。 ① 授業態度の観察、当日・週末・長期休業中の各種課題の点検、各期における定期考査・パフォーマンステストにより評価する。 ② 授業中の発表態度の観察・評価シート、ワークシート・課題等で評価する。 ③ 単語・熟語・例文等の知識の習得・復習を目的とした小テスト、および各期における定期考査・パフォーマンステストにより評価する。
後期	Lesson 1 What Can Blood Type Tell US? Lesson 2 Curry Travels around the World Lesson 3 School Uniforms Lesson 4 Gorillas and Humans Lesson 5 "gr8" or great?	既習の教科書の内容をテーマに本文の内容を簡潔な英語で要約し、それについて意見を述べる演習活動を行う。さらにそれらを発展させ、簡単な文章にまとめ、発表する力を養う。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 社会と情報

科目	学年	単位数	教科書	副教材
社会と情報	1年	2	改訂版 高等学校 社会と情報（第一学習社版）	改訂版社会と情報整理と実習 （第一学習社版）

科目の目標	情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。			
学習活動	○「情報」はコンピュータの操作方法やソフトウェアの使い方を学ぶ授業ではありません。操作能力そのものを評価することはありません。 ①情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を身に付けることをための実践演習を行います。 ②授業内で身につけた知識や技能は、各教科・科目の学習活動に活用できる力を養う観点で授業を進めていきます。 ③レポートや作品、ワークを仕上げることで、実践力を高めていきます。 ※「情報」では、決められた時間内にできる最大限のことをしてほしいと考えています。したがって、時間内に仕上げることを十分に頭に置いてほしいと思っています。また作品は、内容を常に重視して評価を行っています。見た目だけでなく、中身をよく検討し、内容のある作品の完成を目指しましょう。			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	情報や情報社会に関心をもち、身のまわりの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応しようとする。	情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するため、情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて、思考を深め、適切に判断し表現している。	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な技能を身に付け、目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱っている。	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付け、社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解している。
評価方法	○実習への取り組み ○レポート・ワーク提出 ○作品の完成度 ○テーマの設定	○実習への取り組み ○レポート・ワーク提出 ○作品の完成度 ○各種データの活用	○実習への取り組み ○レポート提出 ○作品の完成度 ○テーマの設定 ○表現の内容、方法 ○ソフトの利用	○実習への取り組み ○レポート・ワーク提出 ○作品の完成度

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動(評価方法)
前期	オリエンテーション 第2章 情報通信ネットワークとコミュニケーション 第3節 ネットワークコミュニケーション 第1章 情報の活用と表現 第2節 情報の表現	<input type="checkbox"/> 電子計算機室の使い方やマナーを理解する。 <input type="checkbox"/> 本と情報の関連を理解する。(国語・図書との連携) <input type="checkbox"/> 「コミュニケーションとは何か」を理解し、目的と状況に応じたコミュニケーションの選択について考える。 <input type="checkbox"/> 電子メールでの共通の約束事や取り決めについて理解する。 <input type="checkbox"/> グループごとにデジタルカメラのパソコンへの取り込みができるようにする。 <input type="checkbox"/> ネットワークへの配信の留意点(ファイルサイズ、個人情報や著作権への配慮)を理解する。 <input type="checkbox"/> 情報収集をしたデータをエクセルでわかりやすく表現することができる。 <input type="checkbox"/> プレゼンテーションについて説明し、視覚資料と言葉などの総合的なもので決まることを理解する。 <input type="checkbox"/> リサーチシートを作成させることにより、情報の取捨選択や相手に納得させる方法や手段を考え、効果的な視覚資料の構想ができる。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
後期	第1章 情報の活用と表現 第2節 情報の表現 第1節 情報とその活用 第2章 情報通信ネットワークとコミュニケーション 第2節 情報通信ネットワークのしくみ 第3章 情報社会のしくみと安全性 第2節 情報社会の法と個人の責任 第3節 情報社会と安全性	<input type="checkbox"/> 個々がプレゼンテーションを行い、相互評価ができる。発表のにおいて、自己評価・相互評価ができる。 <input type="checkbox"/> 相互評価を基に改善点を改善し、より良い作品に仕上げることができる。 <input type="checkbox"/> デジタル化によって情報の圧縮が可能であり、すべての情報が統合化できることを理解する。 <input type="checkbox"/> ファイルのダウンロードによる転送時間の理論値と実際の違いについて知る。 <input type="checkbox"/> 著作権に配慮した素材の入手方法を知る。 <input type="checkbox"/> LHA形式やZIP形式の圧縮・解凍ができる。 <input type="checkbox"/> 情報の収集や発信時に注意しなければいけないこととはどのようなものがあるかを理解する。 <input type="checkbox"/> 著作権の構成と各権利の内容、及び例外規定について理解する。 <input type="checkbox"/> 自己の責任を自覚し、他者の権利を尊重する態度を身に付ける。 <input type="checkbox"/> サイバー犯罪の種類と具体例を理解し、受信者のリスクや対策について考える。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。 ※すべての活動が個人またはグループでの主体的実習活動となる。また、発表の自己評価、各単元のレポート等で、学習活動を振り返る。

* この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。